

中日ニュース

シネスコ版

高知新聞=2ス No. 253

新愛媛新聞=2ス No. 181

中国新聞=2ス No. 194

戦末商戦

伝毒る00味 (マカレテ女とエトカス)

No. 518

38.12.20

一、マーガレテ王女関西へ

—京都・奈良

十二月十二日来日されたデンマークのマーガレテ王女は、去る十四日京都を訪れました。王女さまは、考古学の専門家としても知られ日本の美しい庭園をご見学されました。この後奈良へ向われた王女さまは、東大寺などニッポンの文化遺産を鑑賞され、古都のたたずまいを楽しまれていました。

一、鉄砲祭り

—埼玉県小鹿野町

秩父連山にかこまれた埼玉県小鹿野町で、十二月十五日、狩猟安全を祈る鉄砲祭りが行なわれました。夕暮れと同時に、境内に白幣をたてた二頭の神馬が現れると、近郷から集った大勢の狩猟達は一齐に空砲を放つのです。古風にして壮厳な賑いは、秩父山地に連なる狩りの獲物の多いことを祈るのです。

アイモ風土記

“変りゆく八郎潟”

スーパ

冬の陽ざしのもと、日本海に接してひろびろと横たわる八郎潟。だがいくたの伝説をひめる神秘の八郎潟は今、湖としての生命を終わろうとしているのです。

琵琶湖につぐ広大な湖、三十二年より日本の理想的な農業をつくりあげんと始められた大干拓工事は湖から稔りの大地に、四十一年には一万六千ヘクタールの新しい国土の誕生になるのです。

昔より沿岸に住む人々にはかりしれない恩恵をあたえてきた湖も今は埋られてゆくのです。

そうして沿岸に住む者は新しい世界の出現に不安と期待とをもって見守っているのです。八郎潟の南部の羽立部落、これも沿岸の漁村のどこでもがそうであるように変りゆく湖の渦中にまきこまれ苦悶しているのです。このあたりでは半農半漁とはいえ、いまでも漁が主湖全体で魚の水揚げ年間七千五百トンは大きなるおいなのです。国から配布された田も干陸地の土壌の悪さから出来がよくなく、漁業権が消滅した今もいぜん湖にたよる生活をしていのです。

何年かのち干拓事業が経って突き放された人々は一体どこへ帰えればよいのだろうか。いまだ何んの解決策もないようだが……。

63200

36800

13700

12700